國學院大學学術情報リポジトリ

國學院大學図書館所蔵「二十一代集」について：附契沖書入本「新古今和歌集」校異

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2023-02-13
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 荒木, 優也
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002359

國學院大學図書館所蔵『二十一代集』について

附　契沖書入本『新古今和歌集』校異

荒木優也

『二十一代集』とは、綸旨または院旨によって編まれた『古今和歌集』から『新續古今和歌集』に至る勅撰和歌集二十一種を総称した名称である。そのうち『古今和歌集』から『新古今和歌集』を「八代集」、『新勅撰和歌集』から『新續古今和歌集』を「十三代集」とも称する。國學院大學では、写本一組、版本二組の『二十一代集』を所蔵している。今回はこれら三組の『二十一代集』を調査した結果を報告する。

●二十一代集　近世初期写　四〇〇巻四七帖　（貴―３９４７～３９９３）

〈外題〉題簽には金泥で雲を描く。

古今和謌集上・古今和謌集下・後撰和謌集上・後撰和謌集下・拾遺和謌集上・拾遺和謌集下・後拾遺和謌集上・後拾遺和謌集下・金葉和謌集・詞花和謌集・千載和歌集上・千載和歌集下・新古今和謌集・新古今和謌集下・新勅撰和謌集上・新勅撰和歌集下・續後撰和謌集上・續後撰和謌集下・續古今和謌集上・續古今和歌集下・續

拾遺和謌集上・續拾遺和謌集下・新後撰和謌集上・新後撰和謌集下・玉葉和謌集一・玉葉和謌集二・玉葉和謌集三・玉葉和謌集四・續千載和歌集上・續千載和謌集中・續千載和歌集下・續後拾遺和謌集上・續後拾遺和歌集下・風雅和謌集上・風雅和歌集中・風雅和歌集下・新千載和謌集上・新千載和歌集中・新千載和謌集下・新拾遺和謌集上・新拾遺和謌集中・新拾遺和歌集下・新後拾遺和謌集上・新後拾遺和歌集下・新續古今和謌集上・新續古今和謌集中・新續古今和歌集下

〈内題〉巻数は①～⑳で示す。

古今和歌集①③～⑯⑱～⑳・古今倭歌集真名序②⑰・後撰和謌集①②・後撰和歌集③～⑫・拾遺和歌集①～⑳・後拾遺和歌集①～⑳・金葉和歌集①～⑩・詞花和歌集①～⑩・千載和歌集①～⑳・新古今和歌集真名序①～⑳・新勅撰和歌集仮名序①～⑥⑧～⑬⑮～⑰⑲⑳・新勅撰和謌集⑦⑭・新勅撰和哥集⑱・續後撰和歌集①～⑳・續古今和歌集真名序①～⑳・續拾遺和歌集①～⑳・新後撰和歌集①～⑳・玉葉和歌集①～⑫⑮～⑰⑳・玉葉和謌集⑬⑭⑱⑲・續千載和歌集①～⑦⑨～⑮⑱・續千載和謌集⑧・續千載倭謌集⑯・續千載倭歌集⑰⑲・續後拾遺和歌集①～⑳・風雅和歌集①～⑳真名序・新千載和歌集①～⑳・新拾遺和歌集①～⑳・新後拾遺和歌集①～⑳・新續古今和歌集①～⑳

〈保存状況〉良好。完本。

〈体裁〉写本。綴葉装。

〈丁数〉上下二帖の場合、上帖が巻一～十、下帖が巻十一～二十を収める。三帖または四帖の場合の収録巻数は、適宜記した。また、折ごとの料紙枚数を［　］内に示す。その際、一折目を①、二折目を②のように記した。なお、一折目および最終折の1丁は全帖とも見返しの中に折り込まれている。

古今集上5折［①8②10③10④10⑤8］墨付82丁（遊紙前1丁後7丁）
下5折［①8②10③12④10⑤7］墨付85丁（遊紙前1丁後6丁）
後撰集上4折［①12②13③12④12］墨付90丁（遊紙前1丁後5丁）
下5折［①12②13③14④13⑤14］墨付127丁（遊紙前1丁後2丁）
拾遺集上6折［①8②8③9④9⑤8⑥8］墨付94丁（遊紙前1丁後3丁）
下6折［①8②9③9④9⑤10⑥9］墨付100丁（遊紙前1丁後5丁）
後拾遺集上5折［①10②13③15④14⑤13］墨付123丁（遊紙前1丁後4丁）
下5折［①11②15③15④15⑤11］墨付129丁（遊紙前1丁後2丁）
金葉集6折［①10②11③11④11⑤11⑥10］墨付119丁（遊紙前1丁後6丁）
詞花集5折［①7②9③9④9⑤8］墨付75丁（遊紙前1丁後6丁）
千載集上6折［①8②9③10④10⑤10⑥11］墨付109丁（遊紙前1丁後4丁）
下6折［①9②10③9④10⑤10⑥11］墨付111丁（遊紙前1丁後4丁）
新古今集上7折［①10②10③11④11⑤11⑥10⑦11］墨付141丁（遊紙前1丁後4丁）
下7折［①10②10③10④10⑤10⑥10⑦9］墨付131丁（遊紙前1丁後4丁）
新勅撰集上5折［①10②11③11④11⑤8］墨付95丁（遊紙前1丁後4丁）
下5折［①10②11③12④11⑤10］墨付103丁（遊紙前1丁後2丁）
續後撰集上5折［①10②9③9④10⑤11］墨付90丁（遊紙前1丁後5丁）
下6折［①9②10③10④11⑤9⑥8］墨付107丁（遊紙前1丁後4丁）

續古今集上6折［①13②13③13④11⑤11⑥11］墨付139丁（遊紙前1丁後2丁）
下6折［①11②11③12④12⑤11⑥10］墨付128丁（遊紙前1丁後3丁）
續拾遺集上5折［①10②12③13④12⑤11］墨付109丁（遊紙前1丁後4丁）
下5折［①11②12③12④12⑤7］墨付100丁（遊紙前1丁後5丁）
新後撰集上5折［①11②11③11④13⑤11］墨付108丁（遊紙前1丁後3丁）
下6折［①10②10③10④10⑤11⑥9］墨付114丁（遊紙前1丁後3丁）
玉葉集一（巻一～五）5折［①12②12③12④12⑤11］墨付111丁（遊紙前1丁後4丁）
二（巻六～十）4折［①12②12③12④12］墨付89丁（遊紙前1丁後4丁）
三（巻十一～十五）4折［①13②13③12④13］墨付95丁（遊紙前1丁後4丁）
四（巻十六～二十）5折［①10②11③11④11⑤12］墨付105丁（遊紙前1丁後2丁）
續千載集上（巻一～七）5折［①11②11③11④12⑤12］墨付107丁（遊紙前1丁後4丁）
中（巻八～十三）5折［①10②10③10④10⑤8］墨付90丁（遊紙前1丁後3丁）
下（巻十四～二十）5折［①10②11③10④11⑤10］墨付98丁（遊紙前1丁後3丁）
續後拾遺集上5折［①9②10③10④10⑤10］墨付93丁（遊紙前1丁後2丁）
下5折［①9②12③12④12⑤10］墨付103丁（遊紙前1丁後4丁）
風雅集上（巻一～七）5折［①10②10③10④10⑤10］墨付95丁（遊紙前1丁後2丁）
中（巻八～十四）5折［①9②9③9④9⑤9］墨付83丁（遊紙前1丁後4丁）
下（巻十五～二十）6折［①10②9③10④10⑤10⑥10］墨付112丁（遊紙前1丁後3丁）

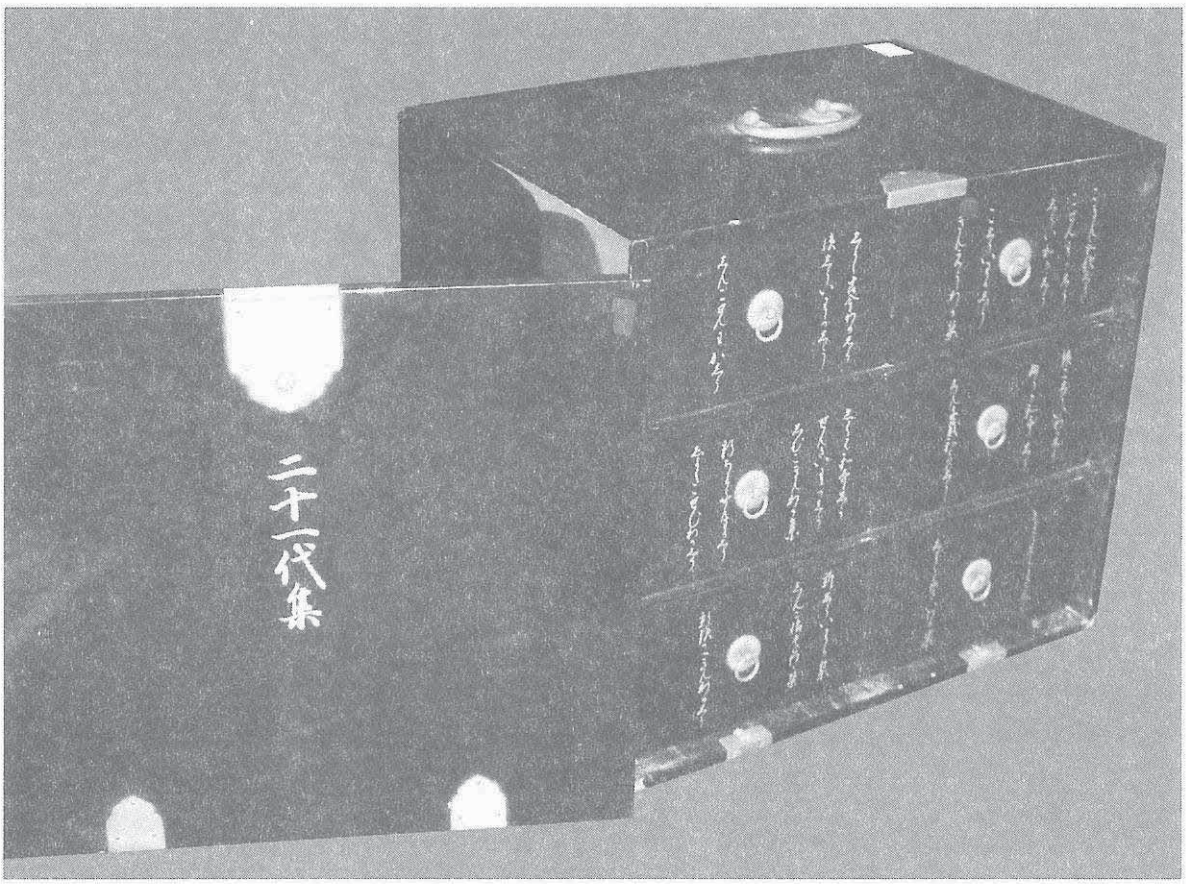
新千載集上（巻一～七）5折［①11②13③11④13⑤13］墨付115丁（遊紙前1丁後4丁）
中（巻八～十四）5折［①11②12③13④12⑤12］墨付113丁（遊紙前1丁後4丁）
下（巻十五～二十）6折［①11②11③12④11⑤11⑥12］墨付130丁（遊紙前1丁後3丁）
新拾遺集上（巻一～七）5折［①10②12③13④12⑤10］墨付107丁（遊紙前1丁後4丁）
中（巻八～十三）4折［①10②10③10④10］墨付71丁（遊紙前1丁後6丁）
下（巻十四～二十）5折［①10②12③12④12⑤9］墨付101丁（遊紙前1丁後6丁）
新後拾遺集上6折［①12②10③12④12⑤12⑥10］墨付128丁（遊紙前1丁後5丁）
下5折［①9②9③9④9⑤10］墨付86丁（遊紙前1丁後3丁）
新續古今集上（巻一～六）5折［①11②12③13④13⑤12］墨付117丁（遊紙前1丁後2丁）
中（巻七～十四）5折［①12②12③12④11⑤10］墨付108丁（遊紙前1丁後3丁）
下（巻十五～二十）5折［①11②12③11④12⑤13］墨付112丁（遊紙前1丁後3丁）

〈表紙〉紺地に金泥で山水や山家を描いた表紙（全帖違う絵が描かれる）。押八双あり。
〈表紙寸法〉縦二三・六糎×横一七・〇糎
〈見返し〉金地の布目紙
〈料紙〉斐紙
〈本文用字〉漢字平仮名交じり
〈一面行数〉十行
〈字高〉一八・五糎

〈書入・貼紙〉異本注記・すり消しあり。
〈奥書〉ナシ
〈蔵書印〉ナシ

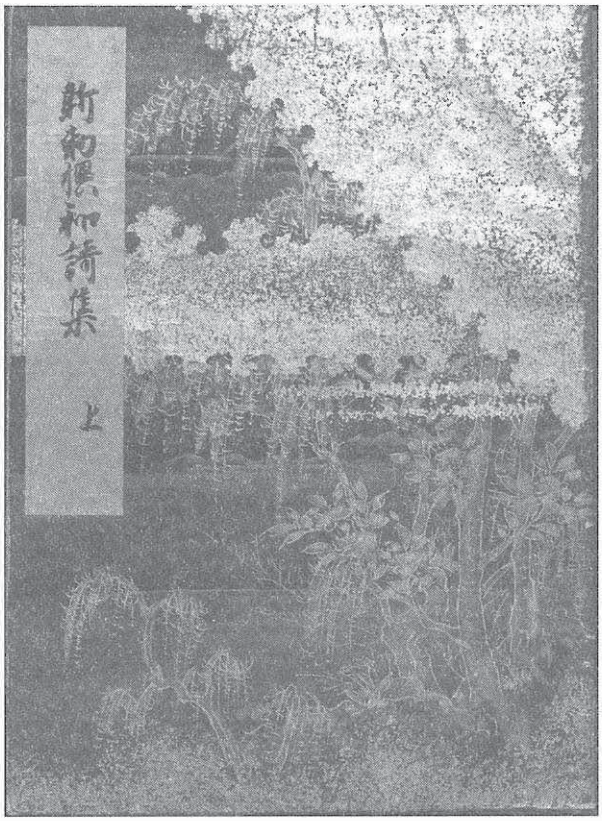
黒漆塗りの倹飩蓋箱の中に、集名二～五種を金泥で書いた黒漆塗りの小引出八箱があり、その中に数帖ずつに分けられて本書が収納されている。ただし、箱の引出に書かれた集名と実際に収納できる冊数は一致しない。これは書写と平行して箱を作成したが、実際に書写し終わった写本とは合わなかったのか、もしくは他の「二十一代集」の箱を流用したかのいずれかであろう。倹飩蓋箱の蓋には「二十一代集」と金泥で書かれている。

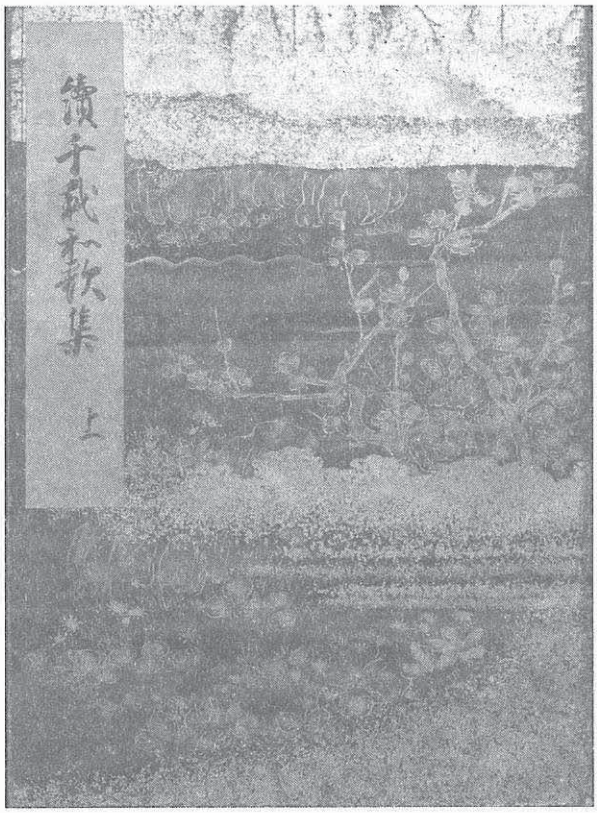
本書は、全帖で装幀、書写の形式が一致することから最初から三人の寄合書きとして計画され、書写されたものと考えられる（→【写真1】）。「八代集」の本文は、正保版本とは一致しないが、いわゆる流布本系統である。また、「十三代集」の本文は、どれも精撰本ではなく（ただし『新千載集』については精撰・未精撰の位置づけがなされていないこと



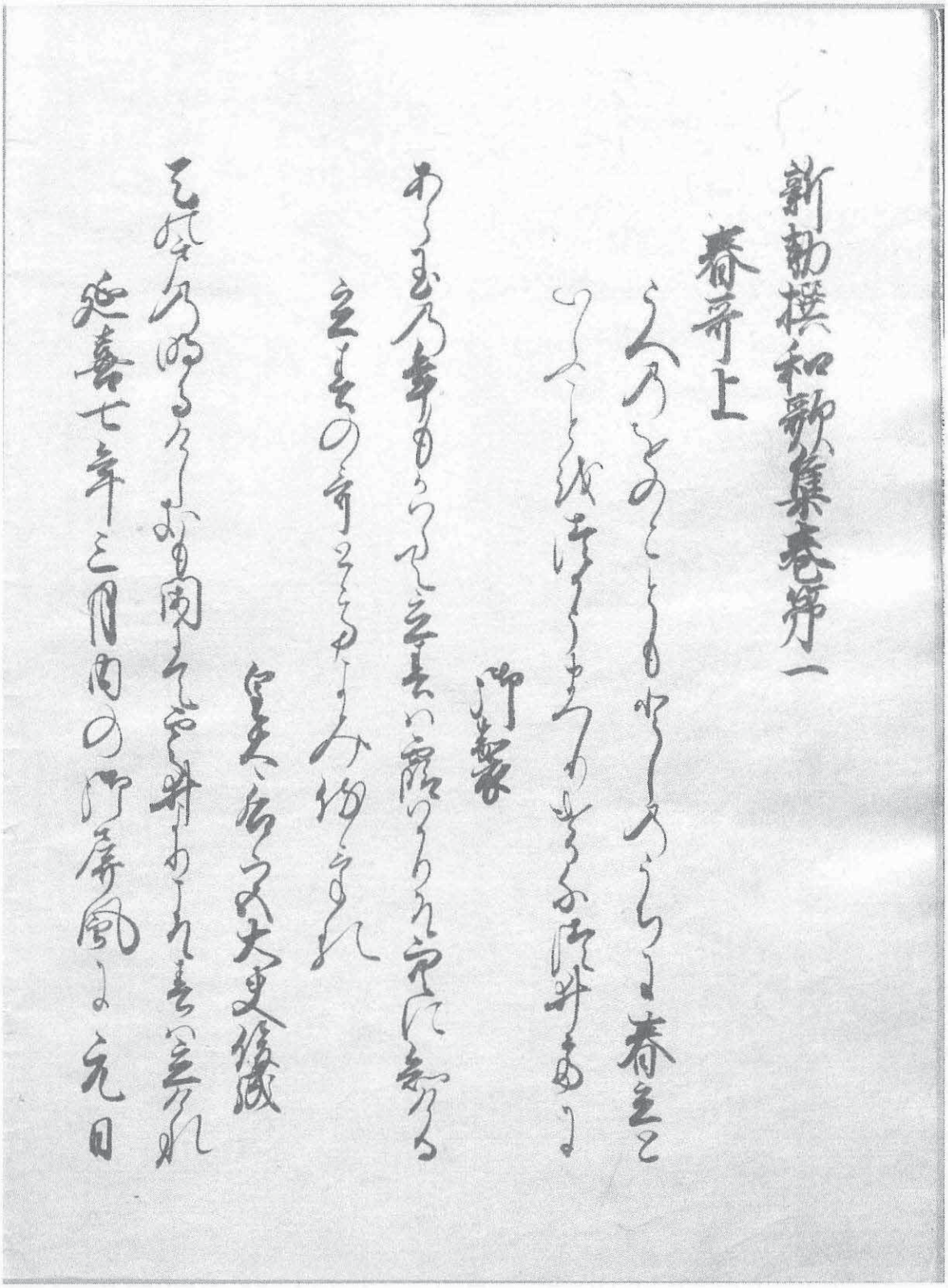
から除く）、未精撰本系統に近い本文であるが、歌数が通常の未精撰本とは違うものが見られる。これが目移りなどの誤写によるものか、それとも本文系統の違いによるものかは不明である。その理由を明らかにするためには、近世期に「十三代集」がどのように書写享受されてきたかを調べる必要があるだろう。今後の課題としたい。

なお、『續後撰集』下帖は3折目と4折目の綴順が逆になっており、錯簡が生じている。

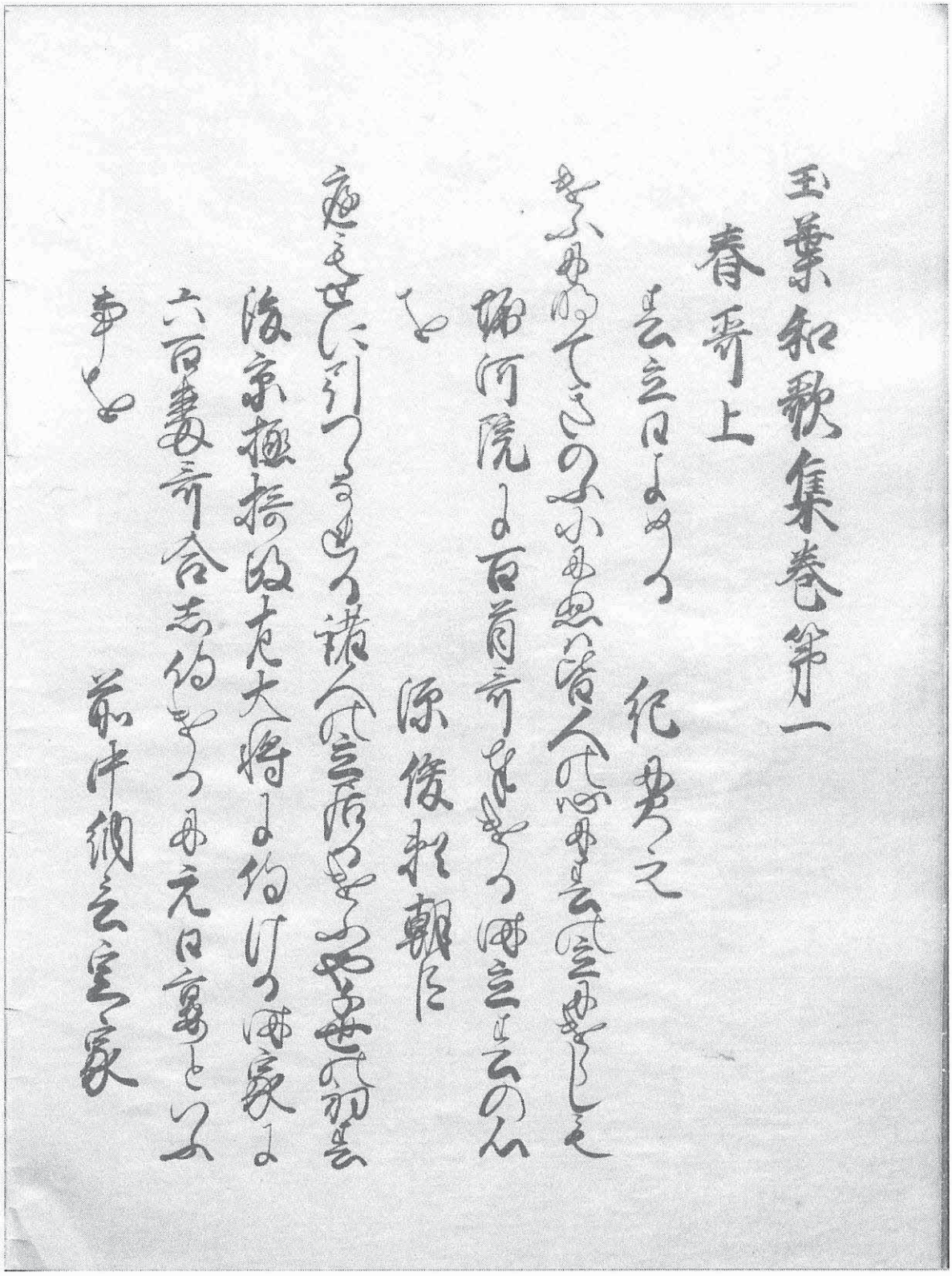


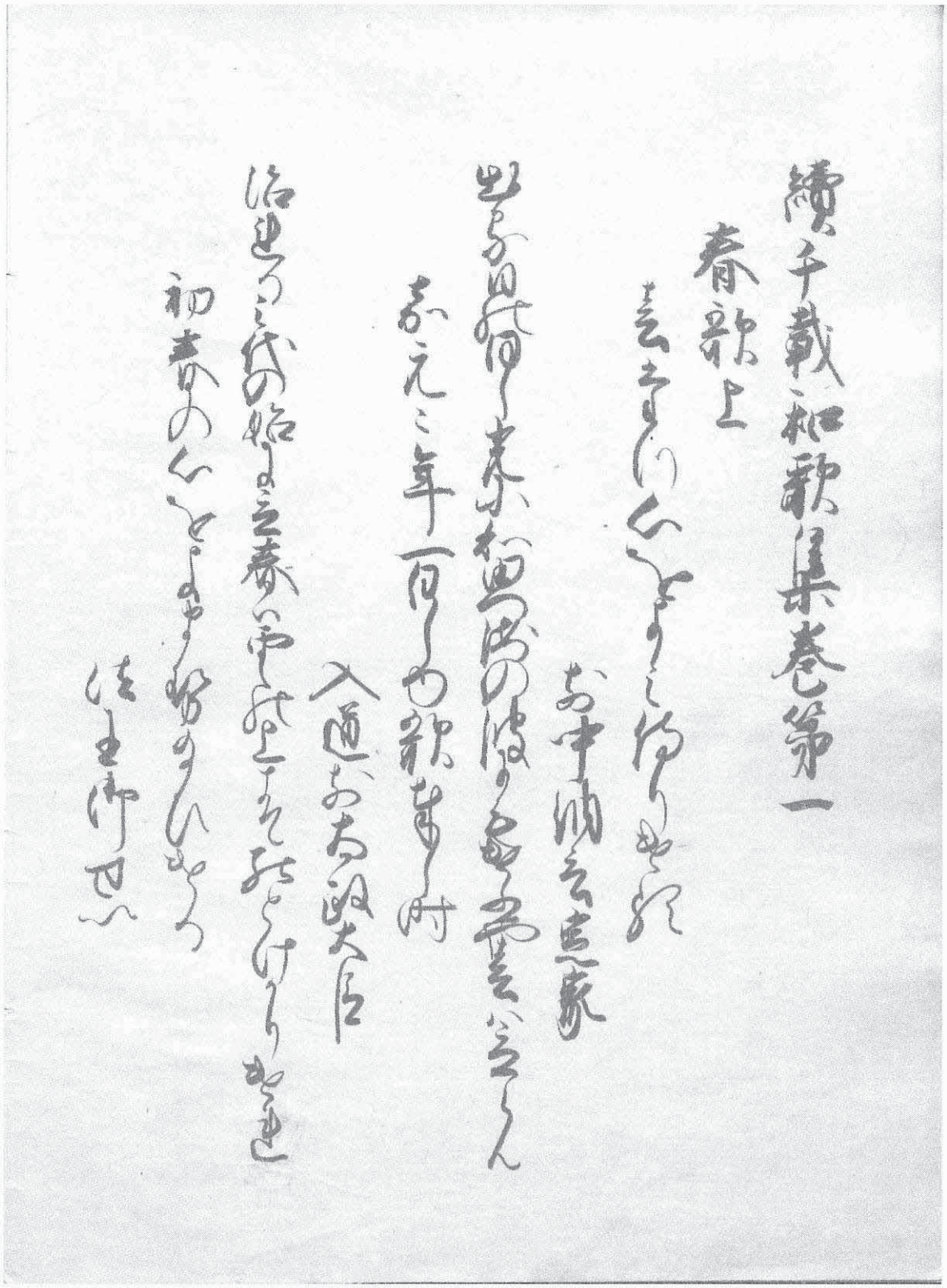


【写真1】
筆蹟①



筆蹟②





●正保版二十一代集　四〇〇巻五六冊　（貴―４０１６～４０７１）

〈外題〉

古今和歌集上・古今和歌集下・後撰咏謌集上・後撰和歌集下・拾遺和歌集上・拾遺和歌集下・後拾遺和歌集下（題簽を貼り誤っており、実際には巻一～十を収める）・後拾遺和歌集上（題簽を貼り誤っており、実際には巻十一～二十を収める）・金葉和謌集・詞花和歌集・千載和謌集上・千載和謌集下・新古今和歌集上之一・新古今和哥集上之二・新古今咏歌集下之二（題簽を貼り誤っており、実際には巻十一～十五を収める）・新古今和哥集下之一（題簽を貼り誤っており、実際には巻十六～二十を収める）・新勅撰和歌集上・新勅撰和歌集下・續後撰和謌集上・續後撰和歌集下・續古今咏謌集上・續古今和歌集中・續古今和歌集下・續拾遺和歌集上・續拾遺和歌集下・新後撰和歌集上・新後撰倭歌集中・新後撰和哥集下・玉葉和謌集上之一・玉葉和歌集上之二・玉葉和哥集下之一・玉葉和歌集下之二・續千載和歌集上之一・續千載和歌集上之二・續千載　歌集下之一・續千載和歌集下之二・續後拾遺和歌集上・新後拾遺和哥集下（題簽を貼り誤っており、実際には續後拾遺倭歌集下）・風雅和歌集上之一・風雅和謌集上之二・風雅和歌集下之一・風雅倭（マヽ）集下之二・新千載和歌集上之一・新千載和謌集上之二・新千載和歌集下之一・新千載和哥集下之二・新拾遺和謌集上之一・新拾遺和歌集上之二・新拾遺和哥集下之一・新拾遺和哥集下之二・新後拾遺和歌集上・續後拾遺倭歌集下（題簽を貼り誤っており、実際には新後拾遺和哥集下）・新續古今和歌集上之一・新續古今和歌集上之二・新續古今咏謌集下之一・新續古今和哥集下之二

〈内題〉古今和歌集（～新續古今和歌集。正保版本と同じ。）

〈尾題〉ナシ

〈版心〉ナシ

〈保存状況〉完本。一部にむれ、虫損あり。

〈体裁〉整版本。五つ目綴。

〈丁数〉八代集はのどの部分に丁付を有す。また、全冊に前後1丁ずつの遊紙あり。丁数に含んだ。

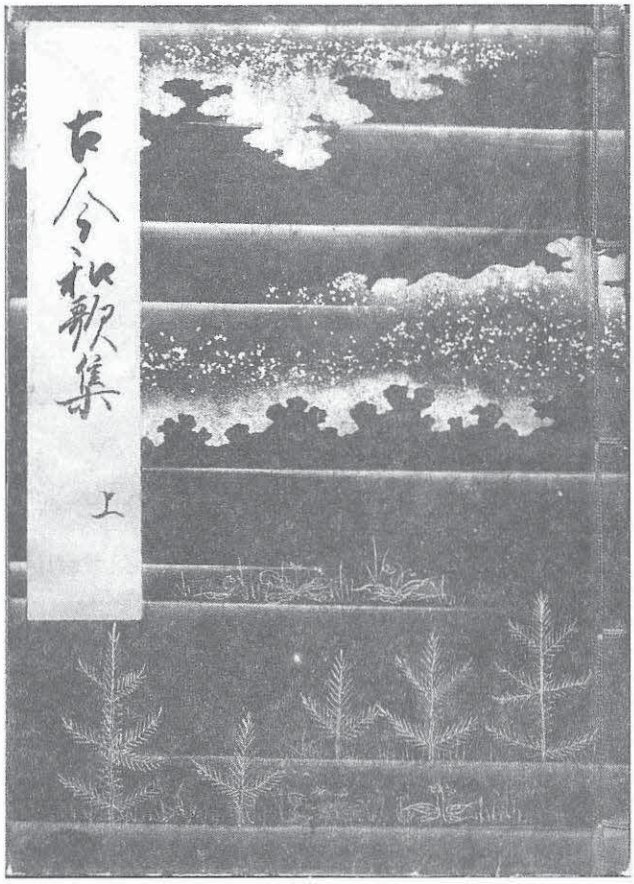
古今集上83丁・下83丁（下巻に真名序あり）、後撰集上93丁・下122丁、拾遺集上91丁・下94丁、後拾遺集下116丁（題簽を貼り誤っており、実際には巻一～十を収める）・上120丁（題簽を貼り誤っており、実際には巻十一～二十を収める）、金葉集117丁、詞花集75丁、千載集上102丁・下100丁、新古今集上之一83丁・上之二67丁・下之二（題簽を貼り誤っており、実際には巻十一～十五を収める）57丁・下之一（題簽を貼り誤っており、実際には巻十六～二十を収める）82丁、新勅撰集上90丁・下98丁、續後撰集上85丁・下98丁、續古今集上81丁・中102丁・下81丁、續拾遺集上101丁・下94丁、新後撰集上74丁・中72丁・下65丁、玉葉集上之一79丁・上之二（巻五～八）82丁・下之一（巻九～十四）104丁・下之二110丁、續千載集上之一77丁・上之二62丁・下之一73丁・下之二69丁、續後拾遺集上86丁・下（題簽を貼り誤っており、実際には『續後拾遺集』巻十一～二十を収める）98丁、風雅集上之一62丁・上之二（巻五～九）63丁・下之一（巻十～十五）80丁・下之二79丁、新千載集上之一66丁・上之二82丁・下之一83丁・下之二109丁、新拾遺集上之一76丁・上之二54丁・下之一69丁・下之二67丁、新後拾遺集上120丁・下82丁（題簽を貼り誤っており、実際には『新後拾遺集』巻十一～二十を収める）、新續古今集上之一77丁・上之二75丁・下之一80丁・下之二77丁

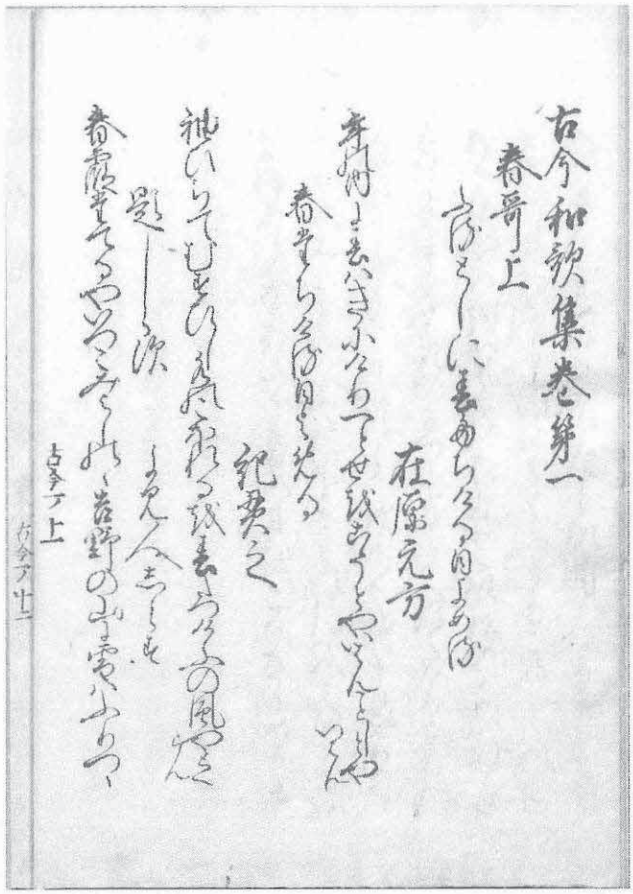
〈表紙〉改装。紺地松草花霞金泥表紙。

〈表紙寸法〉縦二七・〇糎×横一九・三糎

〈見返し〉斐紙金砂子散らし
〈料紙〉楮紙
〈本文用字〉漢字平仮名交じり
〈一面行数〉十行
〈字高〉二〇・八糎
〈書入・貼紙〉ナシ
〈刊記〉『新古今集』巻末に「正保四丁亥暦三月中旬／中御門通弱檜木町／吉田四郎右衛門尉（墨丸印）」とあり。『新續古今集』巻末に「正保四丁亥暦／三月中旬開板／中御門通弱檜木町／吉田四郎右衛門尉（墨丸印）」とあり。
〈蔵書印〉朱長方印。未勘。

本書は黒漆塗りの倹飩蓋箱に収められている。表紙などが改装された、所謂嫁入り本で、使用感は殆どなく、版面の刷りも比較的悪くない。『古今集』、『玉葉集』、『風雅集』は一冊ごとの巻構成が以下に述べるように本来の正保版本の巻構成と異なっているが、これは改装の際に変えたものと考えられる。正保版本の『古今集』は本来上巻に真名序を収めるが、本書では下巻に綴じられている。『玉葉集』上之二は本来収める巻五～十ではなく巻五～八が綴じられ、下之一も巻十一～十四ではなく巻九～十四が綴じられている。『風雅集』上之二は本来の巻五～十ではなく巻五～九に、下之一は巻十一～十五ではなく巻十～十五が綴じられている。また、その改装の際に題簽を貼り間違えたものと考えられる。これらが修正されていない状態で今日まで伝来していることからも、本書が使用されることの殆どなかった嫁入本であることが明らかである。





●正保版二十一代集　空心阿闍梨校本　四〇〇巻五六冊　（貴　Ⅳ―26）

〈外題〉古今和歌集（～新續古今和歌集。正保版本に同じ。）・刷題簽（元題簽か）

〈内題〉古今和歌集（～新續古今和歌集。正保版本に同じ。）

〈尾題〉ナシ

〈版心〉ナシ

〈保存状況〉完本。虫損多し。

〈体裁〉整版本。五つ目綴。

〈丁数〉「八代集」はのどの部分に丁付を有す場合あり（見えない箇所は綴じ目に隠れたか）。なお、本文が見返しに貼り付けられている場合はその旨を明記し、丁数には数えなかった。

古今集上85丁（上巻に真名序あり）・下77丁、後撰集上91丁・下120丁、拾遺集上89丁・下92丁、後拾遺集上114丁・下118丁、金葉集116丁（うち巻末1丁は書込の貼付）、詞花集73丁、千載集上100丁・下98丁、新古今集上之一81丁・上之二65丁・下之一55丁・下之二81丁（うち1丁は書込貼付）、新勅撰集上88丁・下96丁、續後撰集上83丁・下96丁、續古今集上79丁・中100丁・下79丁、續拾遺集上99丁、下92丁、新後撰集上72丁・中70丁・下63丁、玉葉集上之一77丁・上之二（巻五～十）108丁・下之一73丁・下之二108丁、續千載集上之一74丁（前見返しに本文あり）・上之二60丁・下之一71丁・下之二67丁、續後拾遺集上84丁・下95丁（後見返しに本文あり）、風雅集上之一60丁・上之二（巻五～十）70丁・下之一69丁・下之二77丁、新千載集上之一64丁・上之二80丁・下之一81丁・下之二107丁、新拾遺集上之一74丁・上之二52丁・下之一67丁・下之二64丁（後見返しに本文あり）、新後拾遺集上118丁・下80丁、新續古今和歌集上之一75丁・上之二73丁・下之一78丁・下之二75丁

〈表紙〉焦茶地刷毛目表紙

〈表紙寸法〉縦二七・二糎×横一八・一糎

〈料紙〉楮紙

〈本文用字〉漢字平仮名交じり

〈一面行数〉十行

〈字高〉二〇・八糎

〈書入・貼紙〉あり（朱・墨）。

〈刊記〉『新古今集』巻末に「明暦元年初秋吉辰／寺町本能寺前／八尾勘兵衛板」の刊記あり。『新續古今集』巻末には刊記がないが、「正保四丁亥暦／三月中旬開板／中御門通弱檜木町／吉田四郎右衛門尉」と墨書した紙が貼られている。

〈蔵書印〉ナシ

〈伝来〉子爵水野忠欵氏寄贈。

本書を収める倹飩蓋箱の蓋には「空心阿闍梨校本／廿一代集」と墨書されている。空心とは契沖の字（あざな）。契沖の校本とされるのは本書に認められる詳細な書入があるゆえであろう（→【写真2】）。版本への詳細な書入は当時の学問の享受の一つのあり方であったようで、『歌仙家集』への詳細な書入については野呂香氏によって報告がされている（「正保版本『歌仙家集』書入本の分類―契沖書入本と富士谷校本と」『和歌文学研究』94号、二〇〇七年六月）。この『歌仙家集』の書入も契沖の書入を基本として、それに後の学者の説が増補されていることが指摘されており（前掲論文）、『二十一代集』と書入の成立のあり方が類似している。また、『万葉集』においても詳細な書入が認められ、契沖の学問とその享受を考える上でこれら版本への書入の存在は重要であろう。

『二十一代集』で本書と同様に契沖書入を有する本としては以下の5種が確認できる。書入のある版本は、いわゆる正保版本に限られているようである。

・慶應義塾大学付属研究所斯道文庫蔵『二十一代集』

・三手文庫蔵今井似閑本『八代集』・『十三代集』
・鎌田共済会郷土博物館蔵『八代集』・『十三代集』
・沙羅書房古書目録七六号所載『二十一代集』
・玉英堂稀覯本書目二九四号所載『後撰和歌集』・『拾遺和歌集』

契沖書入本は、三手文庫今井似閑本を底本として『契沖全集』十五巻（岩波書店）に『新古今集』と『玉葉集』の書き入れのみの翻刻が収められている。また『新古今集』は、『新古今集古注集成近世新注編1』（笠間書院）にも翻刻がなされている。三手文庫本は、『契沖全集』解題で久保田淳氏が指摘するように、書入の内容に契沖ならば間違えないであろう間違いがあることから、契沖自筆本の比較的忠実な書写ながら、完全に一致するものとは考えられない。契沖自筆本の詳細を明らかにするためには、他の書入本との比較が必要であろう。

そこで、今回、國學院大學本と三手文庫本を『新古今集』に絞って校合したところ、三手文庫本では判読出来ない箇所を國學院大學本で補うことが出来たのと同時に、多くの相違もみつかった（↓【表1】【表2】）。例えば、三手文庫本では橋本公夏卿本と本文を校合し、加えて橋本公夏卿本に見られる切出歌を行間に挿入しているが、國學院大學本では橋本公夏卿本との校合などは見られない。『契沖全集』解題は、橋本公夏卿本からの書入は他の書入とは違う薄墨であると指摘しており、これらを考え合わせると、契沖自筆本では橋本公夏卿本との校合が為されていなかった可能性が考えられる。また、三手文庫本では書入を有す貼紙や紙片などが認められないが、國學院大學本においては貼紙があり、紙片が挟まれている。

國學院大學本と同様に貼紙を有する斯道文庫蔵本については、『新古今集』に絞って調査した結果、ほぼ本紙における書入は國學院大學本と一致していた。ただし、斯道文庫蔵本には独自の書入らしい藍書があり、ここに書写の過程

における増補が確認できる。貼紙等については國學院大學本と同じもの、斯道文庫蔵本にはあって國學院大學本にはないもの、斯道文庫蔵本にはなくて國學院大學本にあるものの三種が確認できた。これら貼紙等が共通しない理由としては、元々ない場合と紛失した場合とが考えられるが、個々の例をどちらかに特定することは難しい。そのため、まずは貼紙の集成を行う必要がある。今回は基礎作業として、國學院大學本に見られる貼紙を翻刻した（→【表3】）。

【凡例】

1、三手文庫本の本文は『新古今集古注集成近世新注編1』の翻刻を用いた。

2、該当箇所を【表1】では『新古今集古注集成近世新注編1』の頁数で、【表2】【表3】では、和歌を新編国歌大観番号で示した。

3、國學院大學本（略号「國」）が『新古今集古注集成近世新注編1』（略号「三」）の本文と異同がある場合のみ校異を記した。また、どちらかにしかない書入の場合は「該当箇所」の欄で書入を示し、有無を○×で示した。その他の箇所は、『新古今集古注集成近世新注編1』と同様の記述である。

4、頭書は（頭）傍書は（傍）と略した。また、ルビや挿入符横の字を［　］に入れて記した箇所がある。＊が付いている場合はルビなどが左側にあることを示す。

5、朱書の箇所は（朱）と示す。また、朱書と墨書が混在する書入の場合は墨書を特に（墨）と示した。

6、判読できなかった箇所は□で示した。

【表1】序文の校異

真名序			
頁	該当箇所	三	國
3	（前見返し「續古今賀」書入前）此集誤再入歌二首　拾遺一首　恋五いつかたにゆきかくれなん　金葉一首　秋上月影のすみわたるかな　経信　取万葉哥事　含五十九首［（右朱）六十二］春上八春下四　夏二　秋上三［（右朱）四］秋下八［（右朱）七］冬五　賀一　哀傷一　旅九　恋一四　恋三一首　恋五九　雑中五　雑下一以上	×	○
	（二丁表二、三行目、頭）漢文帝紀云／日本紀第十七継体紀	×	○
	（二丁裏のど近く頭）新後拾遺、元久二年新古今竟宴の哥、君すめばよする玉藻もみがき出づちよもつたへよ和哥の浦風（紙片を上に貼って隠す。）	×	○
仮名序			
3	（三丁表九～一〇行目本文「家々のもてあそひ／物として」の「し」が見消、右傍、朱）なり	×	○
	（三丁裏九行目本文「いつれとわきかたけれは」の「は」右傍、朱）とか	×	○
4	（八丁裏から九丁表の書入）拾芥集云～	○	×

【表2】書入の校異

巻一			
歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
一	(歌校合) 雲 橋本公夏卿本	○	×
一三	(歌「とぶひのゝべ」) 朱合点	×	○
一八	(歌右傍) 正治二年御室撰哥合 定家 鶯はなけどもいまだ古郷の雪の下草はるをやはしる	×	○
二〇	(歌右傍書入)	下□□同	下並同
二五	(詞書「水江春望」の「江」右傍) 郷以下	×	○
三一	(歌「つらら」右傍、朱) こほり六帖	×	○
三五	(詞書「よめる」に朱見消、右傍、朱) イナ	×	○
四〇	(頭「てりもせず」右肩、朱) 本	×	○
四一	(歌「匂ふ紅」の「紅」左傍、朱見消)	×	○
五五	(歌「夜にしく物そなき」左傍、朱) そめてたかりける	○	×
六五	(歌校合「はるのあめや、菅」の「菅」)	菅	菅万
九八	(頭) 壬二集下 花さかりひかりのとかに出る月につれなく消ぬよしの白雪	×	○

巻二			
歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
一〇三	（作者上、朱）後拾権ノ字ナシ（作者「権」の左傍に朱点）	×	○
	（一一〇と一一一のの行間、橋本公夏卿本による切出歌書入）	○	×
一三一	（頭、前半摺消）大劫の事にこれを引合させ（朱で×印）	×	○
一三八	（歌左傍、朱）源氏若紫　みや人に行てかたらん山桜風よりさきにきてもみるべく（紙片を上に貼って隠す）	×	○
	（一四六と一四七の行間、橋本公夏卿本によるに切出歌書入）	○	×
一五二	（詞書「月入花灘暗」の「入」右傍、朱）テ	×	○
	（「暗」右傍、朱）シ		
一六〇	（頭）風春下　後鳥羽院御製　山ふきの花の露そふ玉川のなかれて早き春のくれかな	×	○
	（一六二と一六三の行間、橋本公夏卿本による切出歌書入）	○	×
一七二	（集付、朱）菅万	×	○
一七四	（集付）菅万	○	×
巻三			
歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
一八五	（作者名下、朱）皇太后宮少進俊宗女	×	○
一九〇	（作者名上「柿本イ」の墨色）	墨色	朱色

一九〇	(歌左傍) 無題詩上大江佐国翫卯花詩云遊子攀加腰帯底郭公囀隠女墻高其趣見或名歌	×	○
一九二	(歌右傍、朱) 家　四月にほとゝきすのなきけれは	×	○
一九四	(頭および行間)	○	×
一九六	(頭書入「郭公」歌の集付、朱) 万八	×	○
二〇七	(歌右傍) 此哥の事、平家物語に見えたり	×	○
二二〇	(頭書入、「枕草子〜」)	よもぎ	あやめ [(朱) よもき] (あやめを朱見消)

巻四

歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
三一一	(歌「はた」左傍、朱) けさ家	×	○
三二九	(左傍書入、朱「催馬楽〜」)	し原	しの原
三三四	(本文異本注記「イ小野」右傍、朱) イナ	×	○
三四六	(集付、朱) 人麿集	×	○
三四八	(歌「風はふかなん」左傍、朱) 露にぬるとつけよ也	×	○
三四九	(歌「出て」右傍、朱) ハ二四代集	○	×
三五一	(歌「萩」右傍、朱) 荻 (左傍、見消、朱) イ同	×	○
三六二	(右傍「続古、秋上」の墨色)	朱	黒

歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本	古深養父	六深養父
四〇五	（頭書入）				
四一六	（歌「よゐ」右傍、朱）ひ			○	×
巻五					
	（四四一と四四二との行間、橋本公夏卿本による切出歌書入）	○	×		
四八一	（詞書右傍）擣歟	○	×		
四八二	（詞書右傍）擣歟	○	×		
五〇〇	（歌「きおひて」の「お」に朱見消、右傍、朱）ほ	×	○		
五〇五	（歌「初雁」を朱見消、右傍、朱）雁金二四代	○	×		
五一〇	（頭書入）	下葉	玉葉		
五二七	（歌「心もや」の「も」右傍書入、朱）	と	とイ同［（朱）八抜同］		
五二九	（歌「人」右傍書入、朱）	べのイ	べのイ家八抜同		
五四三	（歌「嵐」）朱合点	×	○		
巻五末	（「別本有之歟」後）同秋下高砂の尾上にたてる鹿のねにことのほかにもぬるる袖哉恵慶法師　此哥も類句に出す流布の本なし恵慶家集に遠山の尾にたつ鹿の聲聞てもてはなれてもぬるゝ袖かな此哥を引哥せる歟	×	○		

巻六			
歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
五五五	（歌二句と三句の間、朱）○	×	○
五七六	（頭「兼輔集」に朱合点）	×	○
五八二	（歌「あらそひかねて」右傍書入、朱）	あ□□□□物	あらそはぬ物
五八九	（作者下書入、朱）	三条左大臣子	三条左大臣
六一二	（集付）	○	×
六一二	（歌「荻」右傍「萩」の墨色）	黒	朱
六二八	（歌二句と三句の間、朱）△	×	○
六三〇	（頭書入「立ぬれぬ」前に挿入符、右傍）我	×	○
六三一	（歌「岩たに」の「た」右傍書入、朱）	ま	ま八抜
六八二	（作者「蓮イ」下、朱）八抜	×	○
六八三	（頭書入）	消はてゝ	消でも
六九三	（作者「女イ」右傍、朱）八抜	×	○

巻七			
歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
七〇七	(頭) 元慶六年日本紀竟宴得　大鷦鷯天皇　国経　けふりなき宿をまくらしすめらこそやそとせあまりくにしらしけれ　おほさゝきたかつの宮のあめもるをふかせぬことをたみはよろこふ 延喜六年日本紀竟宴得大鷦鷯天皇　左大臣従二位兼行左近衛大将藤原朝臣時平　多賀度能児乃保利天美礼波安女能之多与母尓計布理弖伊万蘇渡美奴留	×	○
七一〇	(歌「数をは」右傍、朱) とは家六下同	×	○
七一〇	(歌「まさごと」の「と」右傍、朱) を	×	○
七一〇	(歌「敷けん」左傍、朱) いひ家全皆同	×	○
七一一	(歌「といふ」右傍、朱) てふ六	×	○
七二四	(詞書「禊日」右傍、朱) に八抜	×	○
七三五	(頭) をしなへて木のめも春のあさ緑松にそ千代の色はこもれり [(朱) るイ]	×	○
七四四	(頭) 嘉應元年ノ事なり文治四年五月十六日奉賀詣棲九十賀逆推可知	×	○
七五五	(詞書右傍書入)	○	×
七五五	(詞書頭「丹後境歟とあり」後) □□之正見同	×	○

巻八				
歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
七五七	(歌左傍書入)	○	×
七五八	(歌「霞と思へは」右傍、朱) 煙二四代	○	×
七七四	(詞書「給たる」右傍書入、朱)	けるにイ	けるにイ　八抜
七七九	(頭) 源氏さか木　浅茅生の露のやとりに君をおきてよものあらしそしつ心なき	×	○
七八二	(集付、朱) 朗詠集	×	○
七八六	(頭) 師光家集云なけく事はへりし比前大納言のもとよりかなしさは秋の―　返し　きり〳〵すおなしみそのにかへりきてなくより外のなくさめそなき　相違□ニヤ□	×	○
七八八	(詞書「実国もとに」の「国も」右傍、朱) の	×	○
七八九	(歌「藤花」の「花」左傍、朱) 衣八抜	×	○
八〇一	(詞書頭) 従二位源隆子	×	○
八〇三	(詞書頭) 従二位源隆子	○	×
	(八一四と八一五の行間、橋本公夏卿本による切出歌書入)	○	×
八一五	(詞書左傍書入)	○	×
八一七	(歌右傍書入)	○	×

八二三	（詞書「つしまに」の「ま」「に」間に挿入符、右傍、朱）の守イ	×	○
八四九	（歌「しほるゝ」の「ほ」右傍書入、朱）	ら	ら万
八四九	（歌「らむ」右傍書入、朱）	かも	かも万
巻九			
歌番号	該　当　箇　所	三手文庫本	國學院大學本
八五七	（頭、朱）後撰六秋哥中　はゝのふくにてさとに侍けるにせんていの御ふみ給へりける御返事に　五月雨にぬれにし袖にいとゝしく露置そふる秋のわひしさ　近衛更衣　御返し　おほかたも秋は侘しき時なれと露けかるらん袖をしそ思ふ　延喜御製　此更衣也　此集恋三に又御製御返し有源周子是也（墨で×）	×	○
八五八	（歌「忘なむ」の「む」右傍、朱）は家	×	○
八六九	（頭書入）	悲しかりけれ	悲しかりけり［（朱）れ］（「り」は朱見消）
八七〇	（右傍書入）	○	×
八七〇	（歌「時とかはしる」左傍書入）	○	×
八八一	（歌「いまや」右傍、朱）いさ歟	×	○

巻十			
歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
九〇〇	(歌「そよに」左傍書入、朱)	さやに	さや
九〇一	(歌「にしにあるらん」の「に」右傍、朱)と万	×	○
九〇四	(歌「山辺」左傍、朱)を山	×	○
	(九〇四・九〇五行間、橋本公夏卿本切出歌書入)	○	×
九〇六	(歌左傍、朱)延喜の末より延長七年の間御屏風の哥のうち	×	○
九〇七	(歌「東路や」左傍書入、朱)	みちよイ	のイ
九一四	(作者「御形宣旨」の「形」右傍、朱)アレ	×	○
九一九	(頭書入)	肥後守定成女	肥後守定［サダ］成女
九四六	(歌「いそなれて」の「て」右傍、朱)○　(左傍、朱見消)	×	○
九四六	(歌「水のしら浪」の「水」右傍、朱)みつ類字	×	○
九五二	(歌「いつかにも」右傍、朱)くにかイ	×	○
九七三	(詞書「よみ侍ける旅の哥」の「る旅」右傍、朱)にイ	×	○
九八五	(詞書右傍書入、朱)	時イ	時イ八抜

巻十一			
歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
九九九	（歌右傍書入、朱）	はも歟	はもる六
一〇一六	（歌右傍書入、朱）	まるゝかな家	まるゝかな以上家
一〇二二	（歌「ねざす」の「ね」右傍、朱）き	×	○
一〇二二	（歌「ほのかにみてし」右傍書入、朱）	はつかに	はつかに見えし
一〇二三	（歌「ねイ」右傍、朱）イナ	×	○
一〇二四	（歌右傍書入、朱）	浜道鳥	道鳥
一〇四五	（作者「法成寺」の「成」右傍、朱）性イ　（左傍、朱）イナ（どちらも墨で×）	×	○

巻十二			
歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
一〇九七	（頭書入）	忠今	忠岑
一一〇六	（作者「左衛門督通光」の「光」右傍、朱）具八抜	×	○

巻十三			
歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
一一五三	（頭）檜垣家集　あふまては身をもかへてんとおもひしをいまはいのちのをしくもあるかな	×	○

一一五八	（歌「のイ」下、朱）八抜	×	○
一一六〇	（頭書入「わが恋」右肩、朱）本	×	○
一一六四	（頭書入「いにしへ」右肩、朱）本	×	○
一一六八	（頭）和泉式部日記敦道親王　あちきなく雲井の月にさそはれて影こそ出れ心やはゆく	×	○
一一六九	（集付）和泉式部日記	×	○
一一七〇	（右傍書入、朱）	道の　空にて	道のの　空にて［ち］（二つ目の「の」、「にて」見消）
一一二九	（歌右傍）新後撰恋二よしさらは恋しなすともなからへて同しよにたにありときかれん　入道前太政大臣	×	○
一一三三	（作者下、朱）若狭守親忠女	×	○

巻十四

歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
一一三九	（詞書頭書入「沐器」左傍、朱）	つき	ユスルツキ
一一四五	（歌「浅茅おふる」の「ふる」右傍、朱）の	×	○
一一五二	（頭書入）	道かたゞ	道はかたゞ
一一五四	（歌「あふひと人はとかむ共」の「は」左傍、朱）の家	×	○

一二八八	（頭書入「露のかごとを誰にとはまし」の前）夕顔はほのかにも朝見のむすはすは	×	○
一二八八	（歌右傍）続千載秋下　俊成女　尋ても忘ぬ月の影そとふよもきか庭の露のふかさを	×	○
一三〇五	（歌右傍書入、朱）	ん二四代	ミン二四代
一三二二	（歌「萩」右傍、朱）荻八抜	×	○
一三二九	（歌右傍、朱）此いきてはわか上なり然るに下へつゝけは人のことゝなるおほつかなし	×	○
一三三二	（歌「おくの海」左傍書入、朱）	出雲	出雲―誤之
一三三二	（頭、朱）同第三、～ヲクト云ハ誤ナリ	○	×

巻十五

歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
一三四五	（頭書入）	てし	つと〈（朱）てし（「つと」を見消）
一三四五	（頭書入）	人は思はし	聞〈（朱）人〉はしられし〈（朱）思はし〉（「聞」「しられし」を見消）
一三五一	（歌右肩、朱）上△（頭書入「続後拾遺」右肩）下△	×	○

一三七二	(頭書入「長歌云」後) あし引の山鳥とてはをむかひにつまとひすといへうつせみの人にあるわれやなにすとかひとはひとよもはなれゐてなけきこふらん云々	×	○
一三八二	(歌右傍、朱) わすれ侍ける人を夢に見て (墨で消す)	×	○
一三八五	(歌「ねてあかしつる」の「て」、朱) 濁点	×	○
一四二五	(頭) 古今 いにしへのしつのをたまきいやしきもよにもさかりは有しものなり	×	○
一四二六	(頭) 賤しき女のつれなきをいへる歟	×	○
一四二八	(頭) 千恋一 貫之 風ふけはともに浪こすいそなれや下句同	×	○
一四二九	(頭) 六 人丸	×	○
一四三〇	(頭) 六帖哥めきたり今の本なし	×	○
一四三一	(頭) 六帖の哥めきて今の本なし	×	○

巻十六

歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
	(第四冊前見返書入)	東坂本の里	東坂本の邊
一四三八	(歌「せしまに」右傍、朱) ましやイ	×	○
一四四一	(頭書入)	侍あるへし	侍心なるへし
一四四三	(頭書入)	なり給ひに	なり給に

一四四三	（頭書入「貞信公」と「返し」との間）折てみるかひもあるかな梅の花ふたゝひ春にあふここちして	×		○
一四五二	（頭「おりにこと」右傍）ことにイ	×		○
一四七三	（歌「おふの浦浪」の「お」右傍、朱）を	×		○
一四九一	（集付）	○		×
一五〇一	（作者上、朱）越後守左少弁	×		○
一五〇四	（詞書「三井寺」朱合点）	×		○
一五一五	（歌左傍「まイ」墨色）	黒		朱
一五一五	（歌右傍書入、朱）	家十夜月		家十五夜月
一五一五	（歌左傍）人丸集　あはこすゑのみあはとみえつゝはゝ木ゝのもとをもとより見る人そなき	×		○
一五四八	（歌右傍書入、朱）	や		やイ
一五五〇	（歌「ぬらんイ」右傍、朱）八抜	×		○
一五五二	（詞書「遍昭寺」の「昭」下、朱でれっかを書き「照」にする）	×		○
一五六七	（頭書入）	□世をそうらむる□の花		露のわく世をそうらむる菊の花
一五六九	（歌右傍）	○		×
一五八〇	（書入）	○		×
一五八二	（歌「絶ぬなけき」の「絶」を見消、右傍、朱）たへ	×		○

巻十七

歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
一六〇一	(頭書入)	無題詩第一	無題集
一六〇一	(頭書入)	豊沢	暮秋即時詩云楚沢
一六〇一	(頭) 師説　只秋風ハ此句ヨリ出タル歟	○	×
一六〇四	(歌右傍左傍書入)	○	×
	(一六〇五と一六〇六の行間、橋本公夏卿本による切出歌書入)	○	×
一六〇六	(詞書「みそぎ」朱合点)	○	×
一六五五	(歌「あまの川」朱合点)	×	○
一六六九	(頭、朱) 詞花雑歌	○	×
一六七六	(歌「ふるはた」朱合点)	×	○
一六七六	(右傍書入)	左細	古畑
一六七六	(右傍書入)	鳴ければ	鳴ければよめる

巻十八

歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
一六九〇	(頭「こなたかなたとは」と「よむべからず」の間) よむへし かなたこなたと	×	○
一六九三	(歌「とひ」左傍、朱) 心アリ	×	○

一六九八	（右傍書入）	○	×
一七〇四	（頭書入）	一生之観	一生之歓
一七二二	（歌「をきてかはれど」の「て」朱合点）	×	○
一七二三	（歌左傍、朱）おきかはれとも六	×	○
一七二六	（詞書「墨」朱合点）	×	○
一七四五	（作者頭）風雅神祇春日御哥　我かくてみかさの山をうかれなは下句同	×	○
一七五二	（頭書入「古今」右傍、朱）本	×	○
一七五八	（歌「露」左下、朱）○	×	○
一七八六	（頭書入）拾玉集〜タヾマドヘトハ	○	×
一七九二	（頭書入「住吉」の「吉」右傍）のえイ	×	○
一八一一	（歌「物もこそ思へ」の「も」右傍、朱）をイ	×	○
一八二〇	（歌「葛の浦風」の「浦」に見消、右傍）うら	×	○
巻十九			
歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
一八五八	（詞書「侘宣」左傍、朱）託	○	×
一八六五	（詞書「神日本磐余彦天皇」左傍朱見消、朱）誤り也（右傍、朱）玉依姫	○	×

一八六五	（歌右肩、朱）三	×	○
一八六五	（歌「つゐの」左傍、朱）都比尓竟宴哥	×	○
一八六五	（集付、朱）日本紀竟宴和歌	○	×
一八六六	（歌右肩、朱）二	×	○
一八六六	（集付、朱）同	○	×
一八六七	（歌右肩、朱）一	×	○
一八六七	（集付、朱）同	○	×
一八六七	（歌「ける」右傍、朱）せる竟宴	×	○
一八六七	（詞書下、朱）誤り也	○	×
一八六七	（右傍、朱）是ハ神代ノ浦ト云所アルヲヨメリ　閑云	○	×
一八六八	（頭「大海に」右肩）万七	×	○
一八六八	（右傍、朱）千種ニ三統理平	○	×
一八八六	（集付）檜垣女集	×	○
一八八六	（歌「かしゐ」の「し」右傍）す	×	○
一八八六	（歌「神」右傍）いくよる（左傍）いくよる神のみそきなるらん　信経	×	○
一九〇九	（頭）詞花恋上　藤原親隆朝臣　風ふけはもしほの煙一かたになかくを人の心ともかな	×	○

巻二十			
歌番号	該当箇所	三手文庫本	國學院大學本
巻二十	（朱ルビ）	○	×
一九三一	（歌「かかけやすまし」の「す」右傍、朱）せイ	×	○
一九五九	（頭書入）	妹許のこと也	妹許のこと—
	（一九七四と一九七五の行間、橋本公夏卿本による切出歌書入）	○	×
第四冊後遊紙			
一九七九	（歌「なり」右傍）けり	×	○
一九九九	（集付）万八夏	×	○
一九九九	（歌「恋しく」の「く」右傍）け万ト同	×	○
一九九九	（歌「盛也」右傍）さきにけり	×	○
一九八六	（歌「ことの外にも」右傍）もてはなれても家	×	○

【表3】貼紙・紙片一覧

歌番号	書入本文
巻一五二	（貼紙）源まき柱　いまはとてやとかれぬともなれきつるまきのはしらそ我をわするな

巻二 一三五・ 一三六	（貼紙）遠嶋記　先年に大内の花の盛昔［ムカシ］の春の面影思ひ出られてしのひてかの木のもとにて男とも哥つかうまつりしに○［定］家左中将にて詠す○年をへてみゆきになるゝ花の陰ふりぬる身をもあはれとや思ふ　左近次将として廿年に及き述懐の心やさしく見えし上ことからも希代勝事にて有き尤自讃すへき哥と見えき○定家此哥読たりし日大内より硯の箱のふたに庭の花を取入て中御門摂政のもとへ遣したりしにさそはれぬ人のためとやのこりけんと返哥せられたりしはあなかちに哥のいみしきにてはなかりしかと新古今に申入て此度の撰集のわか哥には是給なりとそたひ〳〵自讃し申されけりと聞侍き
巻二巻末	（貼紙、朱）家長日記に春と夏に歌出入あらし　しかれは各本不同あんべき也　（墨）右　赤人春雨はいたくなふりその下　めてし花のかにの上　五の句さかりなり一本又後白河御哥　をしめともの下　太政大臣　よしの山の上　興風　あし引の下―延喜御哥かくてこその下こひしくはの上　太神宮百首哥読奉し中に　太上天皇　（集付朱［＊御集］）いかにせん世（朱○［に］）ふるなかめ柴の戸にうつろふ花の春のくれかた　（朱）類句にも在之　（墨）題しらす　赤人万八に　（集付朱［＊万八］）こひしく［（朱）＊け］は形見にせんとわか宿にうゑし藤浪今さかりなりけり［（朱）＊きに万　けり　なにと染しか］　（朱）類句不載（墨）一写本存之　（朱）案拾遺に秋萩として入たり
巻二巻末	（貼紙）源氏総角にれいのしはつむふねのかすかに行かふ跡のしら浪　橋姫に　あやしき舟ともに柴かりつみおの〳〵なにとなき世のいとなみともに行かふさまとものはかなき水の上にうかひたるらし　同うち橋のはか〳〵と見わたさるゝに柴つみ舟の所々にゆきちかひたるなと云々
巻三巻末	（貼紙）此歌又　此巻後に［表在之］　赤染衛門　さみたれの次は一写本不載之して　頼宗卿在明の月はまたぬにの下　保季朝臣過にけるしのたのもりの上　顕昭法師　時鳥むかしをかけて忍へとやおいのねさめの［に］一こゑそする　但山平本類句にはなし

巻四 二九八 二九九	（紙片）大神宮に奉りし秋の歌中に大上天皇御製（御製に墨〇）　朝つゆの岡のかや原山風にみたれてものは秋そかなしき　（朱）昨日までの下　おしなへての上　（墨）右一本にあり又予か所蔵古写本にもあり　續千載秋上に太上天皇［（「太上天皇」に見消）後鳥羽院］御製とてのれり　古今類句にも無之天保十五年十月廿六日於□浪花嶺□廻覧の夜記之
巻四 三六三	（貼紙）同卿［（朱）定家］　花鳥のにほひも聲もさもあらはあれゆらのみさきの春のひくらし　源氏明石にはるゞと物のとゝこほりなき海つらなるに中〳〵春秋の花黄葉のさかりよりはたゝそこはかとなくすゝ［（朱）如本］かいかに花鳥の山よりも露はかりの情か海のく［＊（朱）如本］しけれるかけともなまめかしきにとて　紫式部日記　花鳥の色をも春秋にさかふ［（朱）如本］空のけしき月の影霜雪を見てその時来にけりとはかりにて
巻五 四四一・ 四四二	（貼紙）さみたれの沢は同ふ載之　高砂の尾上にたてるは載之　匡房妻こふる鹿のたちどの下　惟明親王　三山への松の梢をわたる也の上
巻六 五七二	（貼紙）千載　祝部宿祢成仲　夏の夜の月の光のさしなからいかに明ぬるあまの戸ならん　金葉夏　摂政左大臣　みな月のてる月の影はさしなから風のみ秋のけしき成哉
巻六 五八〇	（貼紙）秋下　太上　露は袖に物おもふ比はさそなおく—あきのならひこと　〃（秋下）式内　桐の葉もふみわけかたく成にけり—人をまつとなけれと　必す　哀　慈圓　皆人のしりかほにしてしらぬ哉—しぬるならひありとは
巻七 七三七	（貼紙、朱）十二ノ廿六丁ノ五行　江次第伊勢公卿勅使条次宮司祢宜等次第就膝突把榊一枝注是所謂玉串也
巻八 七八八	（貼紙）玉葉雑四　前中納言定家母の思ひに侍けるに　玉ゆらの—とよみて侍ける返事に　皇太后宮大夫俊成　秋になり風の涼しくかはるにも涙の露そしのにちりける

巻八 八〇七	(貼紙) 梅枝に　見給ふ人の涙さへみつくきになかれそふ心ちして　河海中務集なき人の書とゝめける水くきを見るになみたのなかれぬる哉
巻八 八五六	(貼紙) 源氏須磨見るはなくあるは悲しきよのはてをそむきしかひもなく〳〵そふる
巻十一 一〇〇五	(貼紙) 後撰恋三　女のもとに遣しかる　これまさの朝臣　人しれぬ身はいそけとも年をへてなとこえかたき相坂の関　返し　小野好古朝臣女　東路に行かふ人にあらぬ身はいつかは越んあふ坂の関
巻十一 一〇四四	(貼紙) 源氏夕顔そらおぼれしてなんはかられまかりあるく
巻十一 一〇七一	(貼紙) 夫木廿三　家集　松風暁寒といふ事を神祇伯顕仲卿　暁やをしまか磯の松風は衣かさねよゆらの舟人　新拾旅　大納言通具　とまりするをしまか磯の波枕さこそはふかめよたのうら風　出哥丹後掾にて述懐をかぬれは此ゆらは丹後のゆら成歟
巻十四 一三一〇	(貼紙) 貫之集　六帖　いつも聞風をはきけと荻のはのそよく音にそ秋は来にける　ふく風とは続後撰秋上
巻十四 一三三二	(貼紙) 万四おうの海の塩干のかたのかた思ひに思ひやゆかん道のなかてを　後撰恋三長谷雄朝臣　塩の間にあさりするあまもおのかよゝかひありとこそ思ふべらなれ
巻十五 一四二〇	(貼紙) 家集　みわ山のしるしの杉もかれはてゝなき世に我もすきたつねつる　同家集　住吉の岸によすなるわすれ貝せめて恋しき時そ求る
巻十六 一五八七	(左下に貼紙) この説は契師千慮一失也所謂弘法も筆のあやまりといふへし　(更に下に貼紙) こは三代実録に闕たれはかく被云たりしかれとも朝野群載書伝教大師　慈覚大師　拾芥抄にも同貞観八年七月十二日といへる

巻十八 一七二八	（貼紙）新續古今雑中　後拾遺抄奏覧の時そへて奉ける哥　権中納言通俊　尋すはかひなからまし古のよゝのかしこき人の玉つさ　又　同卿　君みよと書あつめたる玉章をした［る］くも風のつたへつる哉
巻十八 一八五一	（貼紙）〇よの中は　歌にさしてん今昔物語廿四ニ博雅三位蟬丸上にて都にすめかしといはるれは云々
巻十九 一八九七	（貼紙）述懐百首　早蕨　俊成　なけかめやおとろの道の下わらひ跡を尋るおりにし有せは
不明	（二四九あたりに挟み込まれている紙片）　古意　神代の事も思ひいつらんの心なり　さて此分は従者の作なるへし大原やてふにはすかた■■れまて［の香レルニテ］（■部分は重書のため判読不可）してむかし二條后の東宮の御息所と申ける時衆のなかにめしあけられたりけるに近衛司なりける也　左顕昭梅かゝをよはの嵐のさそはすはねやのいたまをいかてもらまし　右勝　左右の作の香ともによろしくは侍れと右すこしおかしく侍り勝に候へし　権大忠良
不明	（四一一あたりに挟み込まれている紙片）万一の鴨の羽かひに露ふりてさむき夕はやまとししのはゆる（「る」を見消）［てふ］歌を傳てあやまりたらん　真清
不明	（七四六あたりに挟み込まれている紙片）曾丹集題詞にあまたのことのはのうちに雲の声の空ことみえす　新勅撰恋一権中納言師時　忍ふれと物思ふ人は浮雲の室に声する名のみそ立　六帖第二　我恋は大江の山の秋風の吹て―空の［（朱）本雲と］声にそ有ける
不明	（一四六八あたりに挟み込まれている紙片）千五百番あふひ草かりねの野へに郭公あかつきかけてたれをとふらん　定家　続古三　承元三年祭使神たちにとまりたるあしたいひつかはしける　定家　思ひやるかりねのゝへのあふひ草君を心にかくるけふ哉　當集十六ニ式子内親王　ほとゝきすそのかみ山のたひ枕ほのかたらひし空そわすれぬ

【写真2】

新古今和歌集巻第十一

憂愁一

題しらず　　[illegible]

[illegible]

人麿

[illegible]

[illegible]

[illegible]